

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	若者の自立に伴走する相談事業・住居提供
資金分配団体名:	公益社団法人ユニバーサル志縁センター
実行団体名:	一般社団法人アマヤドリ
実施時期:	2021年6月～2022年2月
事業対象地域:	全国
事業対象者:	「家族と関係が良くなく家を出たいけれど、一人暮らしのための初期費用がまだない」「一人暮らしをしているけれど、経済的に厳しく頼れる人もいない」など孤独感や居場所のなさを感じており、経済的に困っている18歳から20代の女性

Version 3.2
日付: 2022年4月8日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>サポート付きシェアハウス運営・広報・入居相談事業</p> <p>○コロナ禍で経済的に困窮しており社会的に孤立している若年女性に住まいを提供し、自立に向けた実践的な支援をすることを目的とした</p> <p>○敷金礼金保証人なし、収入25%の家賃で入居可能。半年間0円でも入居可能。家具家電、布団や調味料、米など生活に必要な最低限の物資を完備。カウンセリングも行うことで経済状況によらず安心して過ごせる環境を用意した。</p> <p>○入居者は自立のための生活支援（料理、洗濯等）やキャリア支援、ビジネスマナー研修等の就労支援プログラムを無料で提供した。</p> <p>○居場所のなさを感じている若者の相談にのった</p>
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの長期化に伴い、コロナ禍で家族と過ごす時間が増えたり、失職者が増えており、相談件数は想定以上となった。 ・シェアハウス以外の住居（一人暮らしなど）のニーズが想定よりも多く、シェアハウス入居相談とその後のサポートではない、個別の対応が多かった。 ・医療機関につなぐ必要がある相談者が多く、医療機関への付き添いが多かった。 ・就労前の体調を整える段階の若者が多く、キャリアコンサルティングや就労支援を実施するタイミングを変更し、本人の意欲が湧いてくることに重点をおいた。
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）（事業計画から転記）	④指標（事業計画から転記）	⑤目標値・目標状態（事業計画から転記）	⑥結果(定量化できるものは%も記載、最大100%)	⑦考察
生活困窮者	居場所の不足	若者が安心安全な住まいで生活できる	入居人数	入居実績 定員4人	2月28日現在 3人 (75%)	・現状一人部屋2つ、二人部屋1つ＝4人 ・共同部屋でなく一人部屋の希望者がほとんどのため、先に一人部屋から埋まり、二人部屋が一人分入らない状況となっている
生活困窮者	相談先の不足	入居者の心身の健康状態が安定している	カウンセリングシート	心身の健康状態が安定している	2月28日現在 3人 (100%)	・シェアハウスでの生活が始まる際には希死念慮があった入居者が、現在は就労に前向きになり生活の中で楽しみを見出している。
求職者	相談先の不足	入居者に、就労や一人暮らしに必要な基礎力やスキルが身につく	面談回数 受講者アンケート または成果物 ヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> ・就労または就職活動をしている ・受講者アンケートは5段階評価のうち平均4以上、成果物は80点以上 ・一通りの家事ができる 	2月28日現在 ・就労者3人 ・受講アンケート3名 (100%) ・一通り家事ができる 3人 (100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマナーだけでなく、事実と所感の分け方など、現在働いていない人でも日常で役に立つ内容を実施したことがよかったと感じる。 ・受講者アンケート：A.研修を受けて良かった点、B.自分なりの改善点 結果【A】「今回学んだ内容を就職以外でも使える場面が想像出来た」「失敗することは当たり前であることを理解できた」等 結果【B】「お辞儀の仕方、締切守る、コミュニケーションについてまだ課題がある」「ただひたすら聞いているだけになってしまったので、また機会がある時は自分からも質問出来るような積極的な姿勢で取り組みたい」等

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況 （事業計画から転記）	○入居者の心身の健康状態が安定する ○入居者は一人暮らしに必要な基礎力が身に付く ○入居者に自己理解力とビジネスマナー基礎力、自信が身につく ○就労する ○当団体が居住支援法人認定を受けることで入居対象でない方の住居相談ができ、必要な場所へ繋がる居住支援を受けることができる
考察等	全てにおいて、継続して実施中。 居住支援法人申請準備も順調に進んでおり、3月中に申請予定。

V. 活動

活動	進捗	概要
住居相談・居住支援（適した居住を見つけていくための伴走支援・ステップハウス卒業後の居住先支援）を実施	計画通り	メールや必要に応じてZoom面談を通し課題整理、今後のことを相談者と共に考えた。役所、医療機関、不動産屋、内見などへの付き添いを行い、早期課題解決を図った。必要に応じて、当団体シェアハウスへのトライアル入居説明、相談を行った。相談者各々の希望を尊重し、相談者本人の意思決定に伴走した支援を実施した。
半年間の家賃減額免除により、経済的に困窮した若者に住居を提供	計画通り	全ての入居者が半年間0円で入居できた。新たに助成金受託ができたことにより、12月より家賃を改正。 改正後：2人部屋…38,000円（税込）1人部屋…44,000円（税込）※うち1万円積立可能 入居者全員が希望し、積立を実施できた。今後のための貯蓄に力を入れてもらうため、3月以降は更に家賃を下げる方針。
毎月最低1回の個別カウンセリングを実施	計画通り	全ての入居者が月に1回以上ののカウンセリングを実施。日々悩み相談はほぼ毎日対応した。スタッフの過度な負担にならないよう、対応時間設定を設けるなど対策を講じた。
月1回キャリアカウンセラーによる個別面談を実施	ほぼ計画通り	理事のキャリアカウンセラーによる個別面談を実施。入居したばかりの時は、仕事や進路ではなく生き方や自己分析の時間とした。本人の希望をベースに、時期をみてこちらからも提案し、不定期に開催した。
ビジネスマインド・マナー研修を実施	遅延あり	入居したばかりの時は、仕事や進路についてまで考える余裕がなく、積極的な受講に至らないため、OJTトレーニングを本人の希望をベースに、時期をみてこちらからも提案し、不定期に必要なに応じて開催した。2月は入居者全員が仕事への意欲が出てきたため、ビジネスの基礎研修（ビジネスマインド・行仕事の進め方）を開催した。
家事全般の指導助言を実施	計画通り	週3回10-16時を目安に支援スタッフが現地へ行き実施した。共有箇所の掃除、ゴミ分別、雑巾や布巾の洗濯、一緒に買い物・料理を実施。買い物と一緒にいくことで、①野菜などの目利きや一般的な食品等の値段の相場を知れる。②外出や会話のきっかけ作りになる。③スタッフとの信頼関係構築のきっかけとなるといった利点があった。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	課題整理をする中で、シェアハウス入居・住居支援のみでなく、付き添い支援の需要が多いことに気づいた。2月末まではシェアハウススタッフが全ての相談に対応していたが、相談人数が日々増えていったため、3月より「相談・課題解決・付き添い支援事業」を立ち上げ、スタッフも確保し、シェアハウス現場スタッフとは別に受入れ体制を整えていくこととなった。付き添い支援は、特にニーズがありながらも事業として行っている団体は少ないことから、実績を作り、神奈川県内、全国に波及させていくという目標を持って活動していきたい。
----------------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策のためにも、一人部屋の必要性を感じた。補助金申請にて四人部屋を個部屋にする改装工事を計画中。 ・家賃収入がほぼ見込めないため、ファンドレイジング、他の事業での収益を見込む等、資金獲得の課題がある。
------------------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
神奈川フードバンクプラウス	食糧支援：計4回利用
汐入メンタルクリニック	助言・受診相談：計2回相談
横須賀市役所 生活福祉化・障害福祉課	生活保護 相談、会議、手続き：計3回 障害者手帳 相談、会議、手続き：計1回
横須賀市 児童相談所	相談：計2名
一般社団法人ペガサス	精神障害者発達障害者の就労に関する課題解決方法：ZOOM会議にてスタッフヘレクチャー

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	4,405,370	4,302,217	97.7%
	管理的経費	1,070,000	1,084,444	101.3%
合計		5,475,370	5,386,661	98.4%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	11月18日FM横浜「Lovely Days」 9月21日読売新聞夕刊「30代の挑戦」 6月21日レインボータウンFM「ライフテラータウン」 5月11日FM横浜「ちょうどいいラジオ」 4月8日朝日新聞朝刊
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	10月より毎月ニュースレター発行
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	なし
4.報告書等	なし

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)		
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	いいえ	昨年はホームページ更新費用・社労士費用が捻出できず整備が進んでおりませんでした。現在社労士と規定作成中です。
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		現在、ホームページ更新費用を他助成金にて採択いただいたため、規定作成中・ホームページ更新に向けた打ち合わせを行っています。
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	2022年夏までには完成予定です。
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	理事会：月1回実施
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	いいえ	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	いいえ	ホームページリニューアル中により、今後情報公開予定
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	内部監査	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	◇ハラスメントに関する相談および苦情への対応窓口は設置(対応者：理事堤崎) ◇職員へJANPIAの外部通報窓口を周知した